

## 「なら自治会ニュースコンクール2019」講評

(2020/03/14 審査委員長)

本コンクールは2011年3月に発生した東日本大震災で、紙による情報伝達の重要性を改めて知らされたことから、生駒郡、北葛城郡を対象に同年度にスタートしたものである。このようなコンクールは全国的にも例がなく、試行錯誤を重ねながら対象地域を広げ、2014年度から全県コンクールとなった。

今、私たちは新型コロナウイルスの感染の広がりの中にいる。地域コミュニティの中で、情報の共有手段としての自治会ニュースは、ますますその存在意義を大きくしているのではないだろうか。

今回は、9市4町の30自治会・大字・自治連合会・自治協議会から応募があった。

その特徴はまず、絶対評価で上位にランクされ、優秀賞と遜色ないニュースが例年にも増して多かったことである。

一方で、『全戸配布』ではなく『回覧』のところが10団体あった。回覧は、急を要する情報の伝達には極めて有効で有用なものであるが、内容がキメ細かで豊富になればなるほど、読み手の側としては厳しくなる。「早くお隣に回さなければ」という心理が働き、しっかり読むことが少なくなるからだ。これは、作る側にとっても不本意ではないだろうか。費用やマンパワーなどクリアしなければならない問題が多々あるのを承知の上で、あえて『全戸配布』を勧める所以である。

また、編集担当が一人のところは6団体あった。ニュース紙を継続して発行していくには、複数いることが欠かせない。現に、担当者が一人で、何らかの理由で作業ができなくなり発行されなくなってしまったニュース紙が過去に幾つかあった。

内容については、防災への取り組みが一段と目立ったことである。特に「共助」から「自助」へ比重を移したと思われるニュース紙が多く見られた。各地で頻発した大災害を見て、「自分の命は、まず自分で守らなければ」という意識が広がったことの表れだろう。

なお、『審査委員奨励賞』は評価基準に基づく総合評価にとらわれることなく、各審査委員が独自の視点から奨励の意味で選んだものである。

## 最優秀賞

### ◆「三輪区コミュニティ新聞 馬酔木」(桜井市／三輪区自治会)

活字が大きく、カラー写真も多くなり、その分ページ数を増やして、これまでよりさらに読みやすくなった。記事が整然と並べられ、見出しも的確で、洗練されている。「子ども・高齢者食堂」の開催など、地域に役立つ情報も細かくすくい上げている。何よりも歴史ある郷土への愛着が感じられ、「町を良くしたい」という強い思いが伝わってくる。セピア色の写真が付いた「思い出・歴史散歩」を楽しみにしている読者も多いのではないか。行事予定の一覧を最終面の定位置に置いているのも親切だ。完成度の高い自治会新聞と言えよう。

## 毎日新聞社賞

### ◆「西真美だより」(香芝市／西真美自治会)

まず、表紙のデザインが素晴らしい。大胆で、読み手の気持ちをわしづかみにする。地域の多様なニュースが12ページにわたって網羅されているが、よく整理され、表紙の目次が読者の理解を助けている。迷惑駐車パトロールの結果報告で注意を喚起したり、自主防災通信で女性視点の対策を掲載したり、イベントの告知があったり、地域の身近な情報をすくい取って精力的に発信し続けようという意志を感じる。最終面の「きゅうびいクラブ西真美」は子育て世代に向けたページだが、センスが良く、カラフルで写真を見るだけで楽しい。

## 優秀賞

### ◆「泉台ニュース」(河合町／泉台自治会)

優秀賞の中では、審査委員から圧倒的な支持を得た。創刊から半世紀を超える。担当者が毎年変わるので作り方をフォーマット化し、誰もが作れるようにしているが、これだけの年数を重ねれば、経験者は沢山いることだろう。モノクロ紙面だが、内容は質量ともに充実。ゴミの収集カレンダーや集会所の使用状況など、住民が必要とする情報にも抜かりはない。地域での出来事や活動ができるだけ掲載するようにしているようで、ページ数が一定していないことにも、反って底力を感じる。ページ数が多いので、表紙に目次が欲しいところ。

### ◆「大宮地区総合広報紙 きずな(絆)」(奈良市／大宮地区自治協議会)

大宮地区は奈良市の中心街にある。昨年、自治会を超えて地区の一体化を目指す自治協議会が設立され、ニュース紙もリニューアルした。A3判1枚(4ページ)オールカラー。地域の施設などを紹介するシリーズは、毎回取材に出向いて、Q&A方式で掲載している。協議会としての実情に合った好企画と言えよう。他にも、イベントごとに参加者の声を集めており、自分たちの足で必要な情報を得て発信していることを特に評価したい。読みやすい見出しとレイアウト。記事と写真のバランスも良く、総合的にクオリティが高い。

### ◆「柳本校区通信」(天理市／柳本小学校区区長会)

通常のニュース紙とは異なるが、校区の地域性や目的を汲んだものとして評価できる。柳本校区は古代ヤマトの歴史遺産と農産資源を有し、8町で構成されている。このうち6町は磯城郡田原本町から天理市に編入された。この地域が期待しているのが、唐古・鍵遺跡、纏向遺跡、黒塚古墳などへの“玄関口”としての柳本駅舎だ。その改修を機に地域の“今”を記録し、分かりやすく住民に伝えたいという意識が強く感じられる。テーマによって寄稿や写真提供の依頼をしており、地域の歴史資料としても価値ある紙面となっている。

#### ◆「中山台ニュース」(河合町／中山台自治会)

A4判6ページで、毎月発行している。落ち着きと優しさが感じられる紙面である。自治会の活動報告や役員選挙の候補者一覧など、ややもすると無機的になりがちなお知らせも、他の記事にうまく溶け込んで、見た目にも違和感が無い。行間と余白が程良く、カラーのカットや写真がうまく配置されているからだろう。どの記事も読みやすく分かりやすい。防災をテーマにした「ミニコラム」を高く評価したい。記事が少ない時は、小さな子ども向けの塗り絵を用意している。読者に寄り添おうとする気持ちが、ここにも表れている。

#### ◆「生駒市自治連合会だより」(生駒市／生駒市自治連合会)

自治連合会は127自治会の集合体で、これを意識した紙面づくりに努めているという。まず、表紙が大胆で強烈だ。モノクロと赤系統の二色だが、イラストと漫画で興味を持たせ、力強い見出しで読者に問いかけて紙面に向かわせる。内容は防災、中でも減災に傾斜している。生駒市は比較的災害が少なく、防災意識も高くないのが現状という。そのため様々な切り口で記事を組んでいるが、漫画も多用し、読ませる工夫も怠りない。クロスワードパズルで防災キーワードを見つける“お楽しみ”もある。全戸配布47,000部は凄いと思う。

## 審査委員奨励賞

### ●ほのぼの賞「北今市だより」(香芝市／北今市自治会)

題字のタイトルに「ほっと一息」とある通り、読んでいてぬくもりを感じる。「北今市の宝物」として「子どもペンリレー」など住民を紹介していく写真付きのコーナーが豊富にあり、祭りやイベントでは、多くの住民の写真を掲載している。人を活力にして地域を盛り上げていこうという心意気を感じられ、一つ一つの記事の眼差しが温かい。最終面にお知らせをまとめたのも親切だ。

### ●創刊賞「六条校区ほほえみだより」(奈良市／六条校区自治連合会)

典型的なベッドタウン。自治連合会として「六条校区連合会だより」を発行していたが、校区内にある6地縁団体も一緒になって発行することで話がまとまり、昨年9月、装いを新たに創刊した。地域の実情から、高齢者に向けた記事が多いが、子どもたちへの目線も忘れない。カラーが豊富で、写真も効果的。ちょっとした連載モノがあれば、紙面がいつそう引き締まるだろう。

### ●防災賞「防災ニュース」(王寺町／美しヶ丘自主防災会)

伝える目的がはっきりしていて、見やすく分かりやすく、そして役に立つ。「自助」にフォーカスし、実際に住民たちで検証した上で本当に役立つ情報を発信している。色づかいや文字の大きさなど、掲示しやすい作りにも感心する。また「共助」には「顔の見える関係」が重要との考えから、自治会行事にも積極的に参加。地域の防災ニュースとして、一つのモデルとなるだろう。

### ●デザイン賞「自治連合会だより きずな五條」(五條市／五條市自治連合会)

表紙は大きなカラー写真と目次。この写真が素晴らしい。土地の魅力発見につながり、ページをめくると、その解説がある。デザインはほぼ完成されている。記事も進化を遂げており、各種研修会や防災訓練などのほか、地域に根差したイベントも積極的に掲載。盆踊りを行う地区の減少で、オール五條の「夏まつり盆踊り大会」を企画・開催したのは記録に残るだろう。

### ●動物愛護賞「藤ノ木台自治会だより」(奈良市／藤ノ木台自治会)

シンプルな紙面で、自治会報告が詳細にわたっている。メリハリが欲しいところ。沿道緑地帯の改修で、カラー写真と地図を使い、一目で「Before, After」が分かるようにしたのは秀逸。野良猫対策、犬の飼い主マナーの特集からは、気持ち良く生活できる地域を目指したいという熱意が伝わってくる。これだけの内容があって、『回覧』は読み手に厳しいのではないかと思う。